

CSR 経営

日立は、企業の社会的責任 (CSR) は経営と一体のものであると考えており、製品およびサービスを通じて、社会的

価値と経済的価値を同時に創造し、持続可能な社会の実現に貢献することをめざしています。

経営とCSRの融合

日立は、「優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する」という企業理念に基づき、経営とCSRを融合させ、社会と価値観を共有できる真のグローバル企業をめざしています。

環境問題などの地球社会の基本課題を解決するためには、ステークホルダーとともに未来まで永く受け継がれる価値を創りあげることが重要です。そして、社会的価値と経済的価値を同時に創造することが、CSR経営に通じます。

日立はCSR経営を実現するために、グループ共通の方針として「日立グループCSR活動取り組み方針」を定めています。また、CSRセルフ・アセスメント・ツールをグループ会社と共同で開発、利用し、グローバル企業として求められる実務上の課題を明らかにすることで、グループ全体の活動レベルの向上に役立てています。さらに、グローバルにステークホルダー・ダイアログを実施し、さまざまな価

値観を持つ社外の人々との対話から社会のニーズをくみとり、経営にフィードバックすることで、持続可能な経営と社会の実現に努めています。

日立グループCSR活動取り組み方針

1. 企業活動としての社会的責任の自覚
2. 事業活動を通じた社会への貢献
3. 情報開示とコミュニケーション
4. 企業倫理と人権の尊重
5. 環境保全活動の推進
6. 社会貢献活動の推進
7. 働きやすい職場作り
8. ビジネスパートナーとの社会的責任意識の共有化

2005年3月策定

CSR中期計画「CSR5カ年ロードマップ」に基づく活動の推進

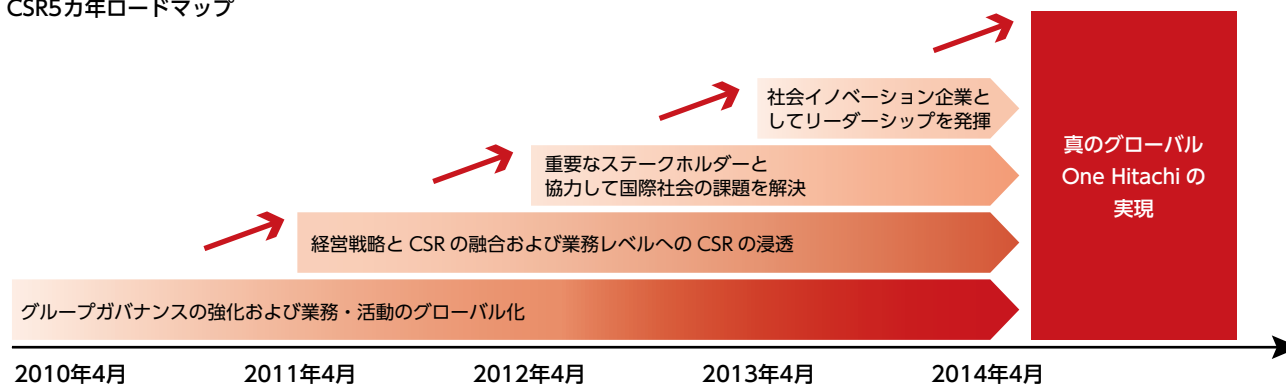
2010年度に策定したCSRの中期計画「CSR5カ年ロードマップ」に基づき、グローバルな社会課題の解決に向けてリーダーシップを発揮すべく、グループ全体の経営基盤のより一層の強化、CSR活動の定量評価、さらには企業の透明性の向上などに取り組んでいます。

2010年度には、ISO26000をはじめとする国際的な原則、基準、規格・標準等にも整合した形で、日立グループ社員に求められる行動を「日立グループ行動規範」として定め、グループ全体で理解の徹底を図るなど、経営基盤を強化しました。

また、世界の代表的な社会的責任投資ファンドインデックスであるダウジョーンズ・サステナビリティ・インデックス・ワールド (DJSI World) に2年連続で選定されたほか、SAM (Sustainability Asset Management) 社とプライスウォーターハウスクーパーズ社が発表する「The Sustainability Yearbook 2011」で「シルバークラス」に認定されるなど、外部からも一定の評価を得ています。

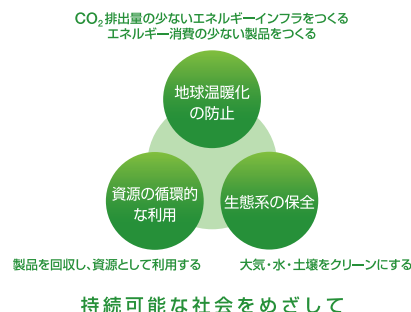


CSR5カ年ロードマップ



環境経営の推進

日立は、気候変動や資源の枯渇、生態系の破壊など世界規模で深刻化する地球環境問題に対処し、持続可能な社会の実現をめざして環境経営を推進しています。「地球温暖化の防止」「資源の循環的な利用」「生態系の保全」を柱とする「環境ビジョン」を掲げ、環境保全に資する製品・サービスの提供、環境負荷低減に努める事業活動をグローバルに展開しています。



長期計画「環境ビジョン2025」

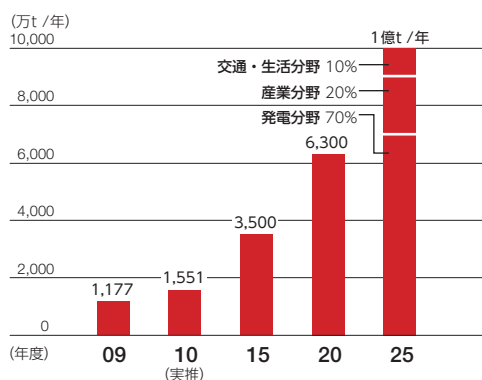
日立は、地球温暖化の防止に寄与するために、事業活動の長期計画として「環境ビジョン2025」を掲げ、2005年度を基準年度として、2025年度までにグループの製品を通じて年間1億トンのCO₂排出抑制に貢献することを目標としています。そのため、製品の環境効率を追求し、日立グループのあらゆる製品を環境に配慮した「環境適合製品*1」にすることをめざしています。

2010年度の製品・サービスを通じたCO₂排出抑制貢献量は1,551万トンで、目標の1,400万トンを達成しました。

高効率のガスタービンやハードディスクドライブ、省エネ製品に使用される自動車用部品や材料など、幅広い製品とサービスが排出抑制に貢献しました。また、2010年度は環境適合製品の機種数が前年より1,069機種増えて9,456機種となり、日立グループ全体の売上高に占める割合は60%に達し、目標の55%を上回りました。

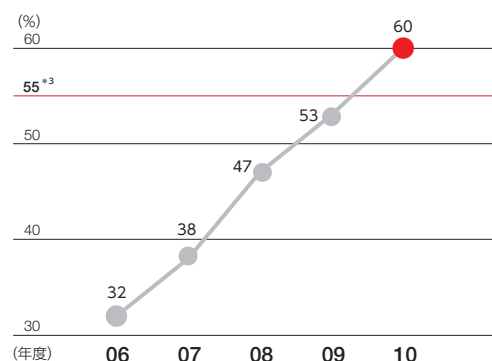
*1 環境適合製品:日立独自の「環境適合設計アセスメント」で定める減量化、再生資源化、省エネルギー性、環境保全性など8項目にわたる評価を行い、基準を満たした製品。

CO₂排出抑制量*2の推移と計画(2005年度基準)



*2 CO₂排出抑制量を算出するCO₂排出係数は、国際エネルギー機関の「CO₂ Emissions from Fuel Combustion Highlights (2010 Edition)」の2008年の数値を利用。CO₂排出係数は、エネルギー使用量から排出されるCO₂を求めるための単位値。

環境適合製品の売上高拡大



*3 2010年度目標値

事業活動に伴う環境負荷の低減

日立は、環境ビジョンの実現に向けて、5年単位の環境行動計画において具体的な環境活動項目と目標を定めて取り組んでいます。

また、事業活動において高いレベルで環境に配慮し、エネルギー利用の効率化や資源の循環的な利用、化学物質の排出量削減など、業界トップクラスの大幅な環境負荷低減を達成した事業所を評価し「スーパーエコファクトリー&オフィス」と認定しています。2010年度までに国内23、

海外12の累計35事業所を認定し、先進的な事例や環境技術をグループ内で共有化し、環境活動の活性化に役立てています。

2011年度から2015年度までの第3期環境行動計画では、第2期の取り組みをさらに強化し、すべての活動項目で環境負荷の低減目標を引き上げて環境活動を推進していきます。